

都市再生整備計画

かにこう こめのき
蟹甲・米野木地区

あいち にっしん
愛知県 日進市

平成18年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	日進市	地区名	蟹甲・米野木地区	面積	530 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標：「新旧住民」や「世代」を問わず、誰もが心豊かに安心して暮らし続けることができるように、市民主体の交流まちづくりを促進する

目標1：交流の拠点・しかけづくりにより、「新旧住民」「世代」間の「壁」をなくし誰もが気軽に交流・ふれあえる機会を増やす

目標2：交流を創出するネットワークづくりにより、誰もが安全・快適に移動できる空間を確保する

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本市は、名古屋市と豊田市に挟まれ、両市のベッドタウンとして現在も人口が増加し続けており、鉄道駅周辺を中心に、毎年数多くの住民が新たに流入してきている。
- ・こうした「新住民」に加え、市内に数多く立地する大学等へ通う学生や教職員などにより、本市は非常に豊かな「人の材」を有しており、さらには天白川やその周辺に広がる農地・緑地など「自然の財」も豊かで、これらを活かした環境・文化・福祉等様々な市民活動が積極的に展開されている。
- ・その一方、「新住民」と従来から住み続けている住民との間で、生活様式や慣習、まちづくりへの意識等の違いからくる「壁」が存在しており、市民活動参加者の偏りや誰もが気軽に集会施設等を利用しにくいなど様々な場面で市民活動への支障が生じている。
- ・またこのような状況は、今後急速な高齢化の到来が予想される本市において地域の防災力や防犯力を高める下支えとなるべき地域コミュニティの弱体化を招くこととなる。
- ・こうした問題を解決し、豊かで生きがいのある暮らしを支える市民活動を促進するとともに高齢者をはじめ誰もが安心・快適に暮らし続けることができるようにするため、第4次総合計画においては、「市民主体の交流まちづくり」をまちづくりのテーマに掲げ、人と人をはじめ様々な交流・ふれあいのある「日進まるごと交流都市」づくりが目指されている。
- ・本地区においても、市役所をはじめ多くの公益施設が集中立地する蟹甲地区における交流拠点づくりや米野木土地区画整理事業による新たなまちづくりを契機とした「新旧住民」協働のまちづくりが検討されているが、交流・ふれあいを創出するための施設整備やしかりけづくりが不十分であり、またこの2地区や本地区と地区外とを結びつけ、より一層の交流促進につながる道路・公共交通網の整備が不十分となっている。

課題

- ・今後、市民が心豊かに生きがいのある暮らしを続けていくためには、豊富な人的資源、自然資源を活用しながら、様々な市民活動を一層充実させていくことが必要である。そのためには、「新旧住民」の交流をはじめ市民が幅広い交流を通じて市民活動が展開できるような「場」づくりや「きっかけ」づくりを進めることが求められる。
- ・日進駅周辺においては市外から転入してきた人を主体とした比較的若い世代が多く住み、また米野木駅周辺についても今後多くの人口が定着していくことが予想されているが、こうした地区では当面は高齢化の進行は緩やかであるものの、数年後一気に高齢化が進むことが考えられる。こうした状況を踏まえると、高齢化が進んだ地区において誰もが安心して暮らし続けるようにするためには、現段階から地域で支えあうコミュニティづくりを促進することが必要であり、それに向けた「新旧住民」交流、「世代間」交流を積極的に促進していくことが求められる。
- ・市民の多様な交流やふれあいを創出していくためには、交流の「場」づくりに加え、その「場」へ誰もが容易にアクセスできるとともに、高齢者や障害者を問わず誰もが安全・快適に、そして円滑に移動できる環境を整えていくことが必要である。

将来ビジョン(中長期)

- 総合計画
1. 市民主体の交流まちづくり ①人と人との交流づくり：文化・行政ゾーンの整備：公共公益施設の有効活用 ②人と学園・企業との交流づくり：市民・学園・企業の交流の場づくり ③人と自然との交流づくり：「水と緑」の歩行者・自転車ネットワークの形成
 2. 市民主体の生涯支援まちづくり ①人にやさしいまちづくり：バリアフリーの推進：快適空間の創出
 3. 市民主体の環境まちづくり ①安全なまちづくり(生活環境)：道路整備・公共交通網の拡充

土地利用計画(国土利用計画法)

- ・蟹甲地区：「にぎわい・ふれあいコア」の形成(既存ストックを活かし、本市の「顔」となるにぎわい・ふれあい拠点づくり)

目標を定量化する指標

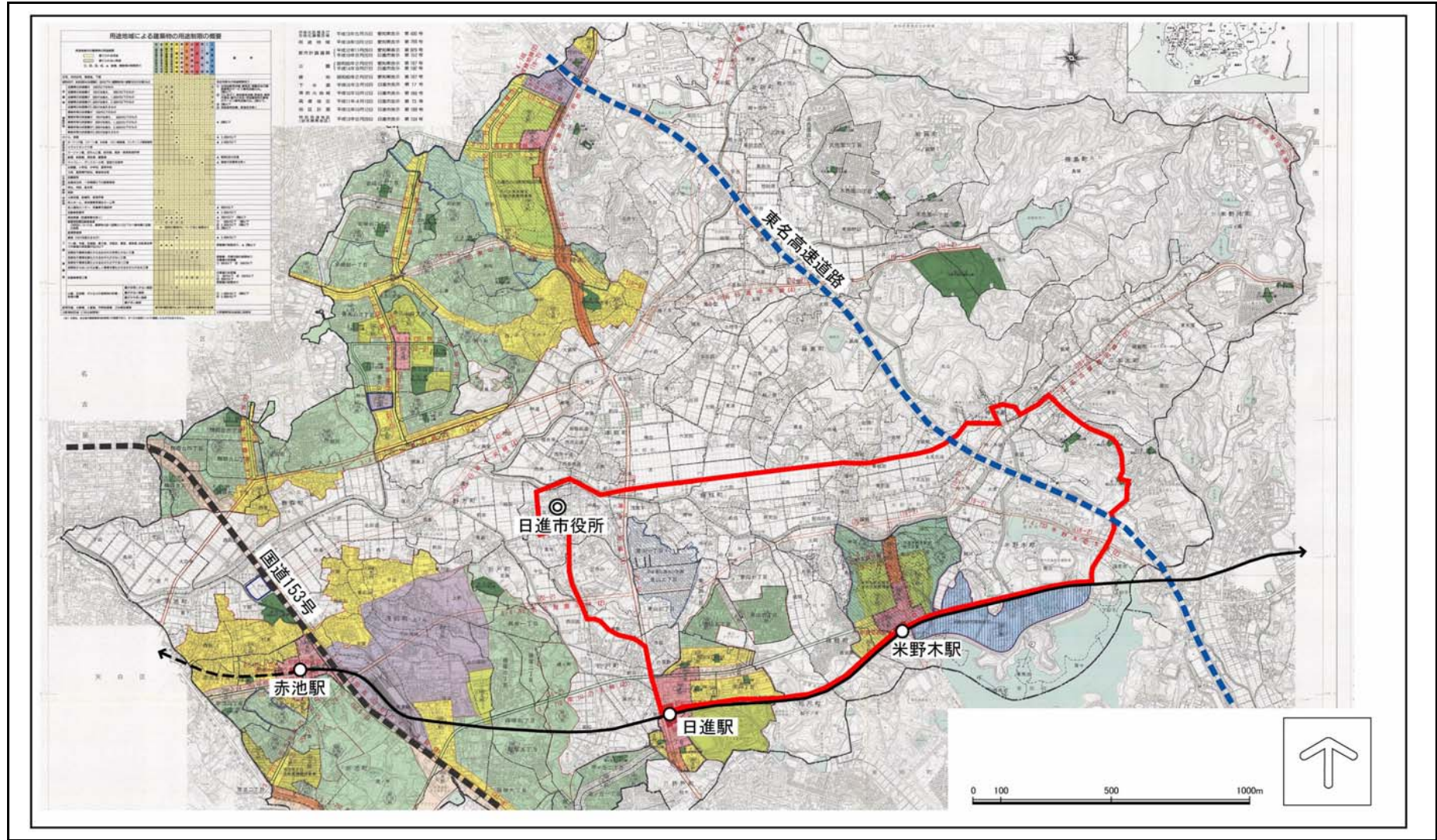
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
図書館来館者数	人/年	1年あたりの図書館延べ利用者数	「交流機会の増加」を新図書館の来館者数で評価する	131,339	16	22
まちづくり活動団体数	団体	まちづくり活動を行う団体(NPO等)の市内登録数	「交流機会の増加」をまちづくり活動団体数で評価する	105	17	22
アダプトプログラムへの参加人数	人/年	1年あたり公共施設の維持管理を行うボランティア活動への参加人数	「交流機会の増加」をアダプトプログラム参加者数で評価する	0	17	22
くるりんばす利用者数	人/年	1年あたりの市内巡回バスの利用者数	「安全・快適な移動空間確保」をくるりんばす利用者数で評価する	305,732	16	22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>●交流の拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蟹甲地区においては楽しく歩ける“シビックセンター(にぎわい・ふれあいコア)”の形成を目指し、多様な市民が集い、ふれあうことのできる拠点施設と施設周辺(アクセス路等)の整備を進める ・米野木地区においては住民の交流の場となる駅前広場の整備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設(基幹):地域交流センター(新図書館に併設) ・道路事業(基幹):市道蟹甲新田中島1号線歩道設置(新図書館へのアクセス路整備) ・地域創造支援事業(提案):新図書館建設事業 ・高質空間形成施設(基幹):米野木駅前広場整備 (関連):米野木駅前特定土地区画整理事業
<p>●交流のしかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新旧住民」「世代」間の交流を促進するため、市民同士が互いに汗をかき、一緒に活動できるような場や機会(市民参加による里山づくりや散歩みちづくりなど)を提供するとともにその活動の側面的支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(基幹):天白川沿い散歩みち整備 ・まちづくり活動推進事業(提案):のんびり村整備事業 ・地域創造支援事業(提案):里山を支える人づくり事業
<p>●交流のネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蟹甲地区において集中立地する既存の公益施設を結び、誰もが安心・快適に移動でき歩行者・自転車の主軸となる道路の整備を進める ・地区内の拠点間のみならず、本地区と地区外との結びつきを強めるため、公共交通網の充実(くるりんばすの拡充)を図る ・本地区内の貴重な自然資源である天白川を活用し、人と人、自然がふれあうことのできる散歩みちづくりを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路事業(基幹):市道栄本郷線整備 ・道路事業(基幹):市道南荒田・追鳥線歩道設置 ・道路事業(基幹):南荒田2号他1路線歩道設置 ・地域創造支援事業(提案):「くるりんばす」車両購入 ・高質空間形成施設(基幹):天白川沿い散歩みち整備
<p>その他</p>	
<p>○公民協働の計画づくり</p> <p>本地区においては、交付金を活用して各種の施設整備を進めること以上に、施設整備を一つの契機としてより多様な交流を促進することが最大の目的である。したがって、各交付金事業の実施にあたっては、極力計画づくり等様々な場面において市民参加手法を取り入れ公民協働による事業実施を進める予定である。</p> <p>○事業完了後の継続的なまちづくり活動の推進</p> <p>事業完了後は、計画づくりの段階から参加してもらった市民等を中心としたまちづくり組織等の立ち上げを進め、当該組織により整備後の施設等を活用したイベント等のソフト施策の展開や市民同士が協力しあいながら維持管理等を行うことにより、持続的な交流・ふれあい活動を進めていくことを考えている。</p>	

都市再生整備計画の区域

蟹甲・米野木地区（愛知県日進市）	面積 530 ha	区域 東山の全部と蟹甲町、本郷町、折戸町、栄、藤枝町、米野木町、三本木町の一部
------------------	--------------	--



蟹甲・米野木地区（愛知県日進市） 整備方針概要図

目標	大目標：「新旧住民」や「世代」を問わず、誰もが心豊かに安心して暮らし続けることができるように、市民主体の交流まちづくりを促進する	代表的な指標	図書館来館者数	(人/年)	131,339 (16年度)	→	147,000 (22年度)
	目標1：交流の拠点・しかりづくりにより、「新旧住民」「世代」間の「壁」をなくし、誰もが気軽に交流・ふれあえる機会を増やす		まちづくり活動団体数	(団体)	105 (17年度)	→	115 (22年度)
	目標2：交流を創出するネットワークづくりにより、誰もが安全・快適に移動できる空間を確保する		くるりんぱす利用者数	(人/年)	305,732 (16年度)	→	411,000 (22年度)

